

## いわて農業者トップスクール開校

いわて農業者トップスクールの入学式が平成15年7月30日に農学部の農業教育資料館において開催された。



67名の入学者を前に挨拶する太田農学部長

### 太田義信農学部長式辞

本日ここに、来賓各位のご臨席のもと、平成15年度「いわて農業者トップスクール」の入学式を挙げるにあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

まずは自らの農業経営の改善に向けて、希望に胸を膨らませて入学されました皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

この度の「いわて農業者トップスクール」は、農業を取り巻く環境が大きく変化する中で、本県農業のプロ中のプロとなるトップリーダーを育成するとともに、これらの先導的な農業経営を地域へ波及させることを目的とし、岩手県、岩手大学、岩手県農業会議、岩手県認定農業者組織連絡協議会により、全国初の産学官連携として、新たに開設したものであります。

近年、輸入農産物の増加やデフレ経済などにより、農産物価格が低迷しておりますが、こうした中で農業経営を発展させていくためには、農業者は、農産物の生産者から、経営者へと意識転換を図り、経営改善に向けて取り組むことが強く求められております。

しかしながら、これまで農業者に対する経営管理や流通、財務会計等の経営面での能力向上の場は、必ずしも十分な状況にありませんでした。

このため、岩手大学のキャンパスのもとで、本県農業の担い手であり認定農業者に対し、大学教授や全国

の先導的経営実践者などを講師として、農業経営やマーケティングの理論から応用まで、幅広く体系的に研修する場を設けることとしたところであります。

さて、我が国の経済社会は、大きな転換期を迎えております。農業においても、平成16年度から開始されます新たな米政策への適切な対応や、消費者ニーズの高まりに対応した安全で安心できるフードシステムの構築など、これまでの考え方や手法では解決できない課題が山積しており、新たな観点に立脚した改革が求められております。

こうした転換期にあって、皆様にはこのトップスクールを通じて、自己決定、自己責任の考えのもと、それぞれの経営に明確な目標と戦略をもって、自立できる農業経営をいち早く確立されますことを期待するものであります。

これからは同じ気概をもって入学されました皆様が、思う存分、お互いの農業経営の夢を語り合い、相互に研鑽されますとともに、農業経営の確立という同じ目標を持った多くの仲間と交流し、「経営マインド」を一層高めていただくことを切に望むものであります。

終わりに、本スクールの円滑な運営に当たり、関係者の皆様にはより一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。いわて農業者トップスクール入学式の式辞といたします。

# いわて農業者トップスクールの実践

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 木村 伸男

## 1. スクールのねらい

このスクールは、岩手大学と、岩手県農業会議・認定農業者連絡会議の3者が協力し、認定農業者など将来にわたって岩手県農業の担い手を対象に、経営者の在り方や経営管理法、マーケティング手法、先進的な実践者との交流を通じて、経営者としての能力を開発し、岩手県農業のトップリーダーの育成を目的とすることとした。

## 2. 受講者とスクールの実施カリキュラム

受講生については、認定農業者及び認定農業者を志向する農業者等を対象に募集した。申込者は67名であり、全員の入学を許可した。入学者の平均年齢は46歳で、うち20代8名、30代10名、40代17名、50代28名、60代4名である。また、認定農業者は54名、女性は4名である。

授業は、平成15年7月30日に入学式を校内の農業教育資料館で行い、開始した。実施した授業は、7月30日：現代農業政策論、8月27日：経営者論、9月10日：公開講座「これからの農業をどうきり拓くか」、9月24日：経営管理論、10月29日：マーケティング論、11月12日～13日：現地実践事例研修、11月26日：財務・会計管理論、12月6日：自主ゼミ、12月17日：卒論発表会・県幹部職員との話し合い、2月4日：公開講座「農業構造改革を目指すこれからの経営者像」、である。

卒業式は、2月4日、岩手県民会館で開催した。

## 3. スクール開講の成果

スクールを終え、受講生にとって何が変わったか。

主なものは、3つである。まず第一は、社会の変化、消費ニーズ、農政などに関心が深まり、情報を重視することになったことである。第2に、変化への対応、変化を先取りする意欲が高まった。第3は、農業に対する夢、ビジョンが持てたことである。このほかに、計数感覚が高まった、経営者としての自覚が高まった、とする者も多かった。

この結果、経営者能力が向上した。特に、情報収集力、対応・先取り力、計数感覚、好奇心が高まり、スクールの目的である経営者能力の開発ができた。

変わったことについて、具体的に述べておこう。

### ●伊藤氏 (57歳)

- ①これからは情報が大変重要であることを認識した
- ②経営に対する考え方、販売に対する考え方が全く変わった
- ③経営するに当たっては、記帳が重要
- ④経営者としての自覚、意欲が変わった

### ●森合氏 (29歳)

- ①農業のイメージが変わった
- ②情報の大変さ、農業への意識が変わった

## 4. 受講生がスクールへ望むこと

最後に、今後、スクールに何を望んでいるか、受講生の声を具体的に示す。

### ●伊藤氏 (57歳)

- ①卒業しても生徒が一同に会して勉強できる機会・場を作ってほしい
- ②現場にもどって作業をする時、技術的にわからないところを相談したい
- ③全国的な情報交換を提供してほしい

### ●菊池氏 (47歳)

- ①岩手大の内容を知りたい、今、農学部でやっていること等、オリエンテーション、この機会しか岩手大学に入る事がない
- ②法人の経営分析
- ③懇親会で話し合いをして輪を広めたい、経営管理についてまだまだ分からない人が多い

### ●上山氏 (36歳)

- ①もっとドイツのマイスター制度のようなことをしてもよいのでは？

### ●千葉氏 (33歳)

- ①今後、お金を出してでも勉強したいので続けてほしい
- ②同期生との交流を深めたい



研究  
トピックス

「卵核胞期核質置換 (GVT) 技術によるウシ産子」

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター  
平田統一・佐々木修一・植野正美・佐々木 修

2002年2月19日、FSC御明神牧場においてウシでは世界で初めて卵核胞期核質置換 (GVT) 技術により産子を得ました。子牛が誕生した際には多くの新聞・テレビで報道されました。この成果は、民間の加藤レディスクリニックとの共同研究によるもので、技術の概要は図に示すとおりです。

この研究の目的は、高齢による雌不妊ウシから産子を得る新たな技術を開発することでした。血統が優秀である、研究材料として遺伝疾患を保存したいなど様々な理由によりどうしても産子を得たい動物でも、高齢によって不妊となればもうあきらめるしかありませんでした。この課題を解決するため、卵子の老化、特に卵子細胞質の機能不全に着目して、若齢の繁殖に問題ない動物の卵子細胞質を借りることにしたのです。この技術はいわゆる“クローン”とは異なり、受精現象を伴うのでより自然に近い安全な技術です。

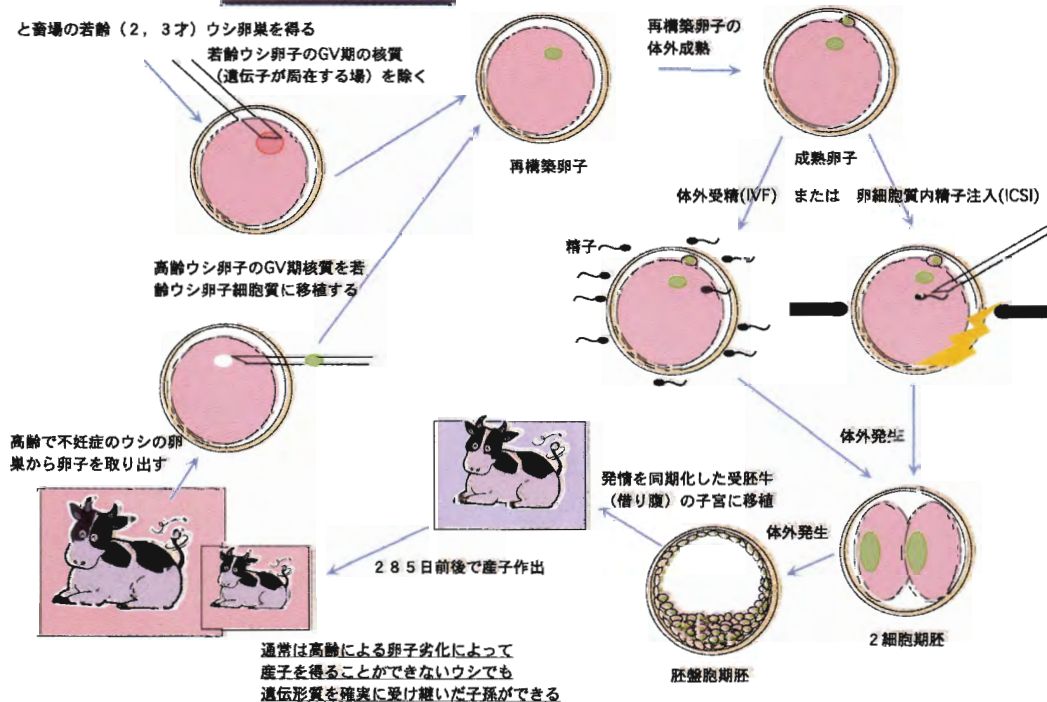
39個の老齢卵子を処理し5個の胚盤胞を得ました。4頭の受胎牛に移植し、2頭が受胎、最終的に1頭の雄産子が生まれました。

現在この産子は2歳になろうとしています (写真)。発育はすこぶる順調でした。4頭の雌ウシに1回だけ自然交配したところ全て受胎し、本年2月に2世ウシが続々誕生する予定です。発育や繁殖に問題ないと分かれば、この技術の安全性を証明できることとなります。

今後は、畜産 (細胞質の要因が家畜の発育性や産肉・産乳性に影響するか)、野生動物 (希少動物の保護・増殖技術)、産婦人科 (高齢になって子供を得ることをあきらめていた夫婦に夢を) 分野などで展開の可能性があります。



GVT技術の概要



## 地域への貢献の展開 (平成15年度)

### 地域フィールド総合科学分野

中山間地域農林業シンポジウム  
岩手県水田農業改革シンポジウム  
胆江地方水田農業改革シンポジウム  
いわて農業者トップスクール

玉山村農業委員・認定農業者の合同研修  
花巻地方水田農業改革シンポジウム  
花巻農協花巻地方集落型経営体研究会  
きたかみ農業フォーラム

H15年 6月21日(土)~22日(日)  
H15年 6月23日(月)  
H15年 7月28日(月)  
H15年 7月30日(水)~  
H16年 2月4日(水)  
H15年 8月4日(月)  
H15年 9月8日(月)  
H15年 12月2日(火)  
H15年 12月7日(日)



### 持続型農業生産技術分野

第2回 フィールド科学体験教室  
ー森林から水田までの科学体験ー  
開講式、田植え、スイカ定植  
リンゴ、ナシの摘果、野菜の播種、花壇作り  
滝沢演習林で森林観察  
ジャガイモ、スイカおよびブルーベリーの収穫、  
カレーライス作り  
豆腐、ジャム、乳酸飲料加工、アイスクリーム作り  
稲刈り、リンゴ、ナシの収穫  
稲の脱穀、粉搗り、わらぞうり作り、閉講式

H15年 5月10日(土)  
H15年 6月14日(土)  
H15年 7月12日(土)  
H15年 8月9日(土)  
H15年 9月13日(土)  
H15年 10月4日(土)  
H15年 11月8日(土)  
H15年 6月27日(金)  
H15年 7月23日(水)  
H15年 10月29日(水)  
H15年 12月10日(水)



第1回 農業技術セミナー「東北農業の現状と技術研究最前線」  
第2回 農業技術セミナー「日本の開発途上国農業への貢献」  
第3回 農業技術セミナー「農村文化の伝承と今の暮らし」  
合同セミナー「ハクサイの晩抽性育種」、「種苗産業の動向」

### 循環型森林管理技術分野

第40回 フィールドセミナー「冷温帯のブナ林について」  
第41回 フィールドセミナー「総合的学習における森林教育5」  
第42回 フィールドセミナー「森林ボランティア」  
第43回 フィールドセミナー「総合的学習における森林教育6」  
第44回 フィールドセミナー「総合的学習における森林教育7」  
第11回 公開講座「学校における森林教育の進め方」  
第45回 フィールドセミナー「初秋の滝沢演習林を歩こう」  
第46回 フィールドセミナー「森づくり計画学習交流講座1」  
第47回 フィールドセミナー「森づくり計画学習交流講座2」  
第48回 フィールドセミナー「森づくり計画学習交流講座3」  
第49回 フィールドセミナー「かんじきを履いて冬の森を歩こう8」  
第50回 フィールドセミナー「かんじきを履いて冬の森を歩こう9」

H15年 5月14日(水)  
H15年 5月16日(金)  
H15年 5月25日(日)  
H15年 5月29日(水)  
H15年 6月24日(火)  
H15年 8月11日(月)  
H15年 9月14日(日)  
H15年 9月21日(日)  
H15年 10月5日(日)  
H15年 10月19日(日)  
H16年 2月29日(日)  
H16年 3月7日(日)

